

洛西“SAIKO”プロジェクト 令和6年度第1回推進本部会議 摘録

【日時】

令和6年7月30日（水） 10:00～10:40

【場所】

京都市役所分庁舎4階第5・第6会議室

【出席者】

（本部長） 竹内副市長

（副本部長） 箕都市計画局長、山中洛西担当区長

（本部員） 西田都市経営戦略監、神田財政担当局長、結城総合企画局長、
砂川産業観光局長、平井都市政策担当局長、伊藤住宅政策担当局長、
田中土木技術・防災減災・公園利活用担当局長（代理出席：朝山事業促進担当
部長）、三科西京区長、大塚交通局次長、春田教育次長、

（オブザーバー） 森京都市住宅供給公社副理事長

（事務局） 都市計画局まち再生・創造推進室

【摘録】

■資料説明

- (1) 進行中の取組について（都市計画局まち再生・創造推進室 高木室長）
- (2) RAKUSAI PUB.LAB.（洛西パブ.ラボ）の開始について（都市計画局伊藤住宅政策担当局長）

■関係部局からの進行中の取組について説明

《便利で賑わいのある暮らし》

（都市計画局 伊藤担当局長）

タウンセンター広場等の再整備構想の策定に向けて、公園や広場などのパブリックスペースを居心地の良い空間に変え、まちの魅力を高めていくために10年後の洛西の姿を取り入れたビジョンをまとめた。作成にあたったのは、京都市の若手職員を中心としたプロジェクトチームで、ワークショップや社会実験、市民へのヒアリングを重ねながら『洛西グランドデザイン2033』を作成し、これをVol. 1とした。

近年、全国で公園広場等の公共空間を有効に活用し、魅力的なまちづくりにつなげている事例が増えている。公共空間のハード整備に際して、そこを「使いたい」人たちとビジョンを共有しながら進めることで、にぎわいのある空間が生まれている。

ここ洛西地域においても、公園や広場などの公共空間が多い、自然が豊かであるという強みを生かし、公共空間を活用した洛西地域の将来のビジョンを市民の方々と共有し、魅

力的なにぎわいのある場所にしていきたい。

今後まちづくりの取組を通して、Vol. 2にブラッシュアップしていく予定。また、タウンセンター広場等の再整備構想の策定も併せて進めてまいる。

《若者を呼び込む住まいづくり》

（都市計画局 伊藤担当局長）

市営住宅の空き住戸のリノベ・活用は令和5年度から取組を開始している。民間事業者が市営住宅をお貸しし、その資力やノウハウを活かしてリノベーションや入居者の募集を行っていただく仕組みとなっており、本市の事業費はゼロである。

洛西地域においては、すでに若者子育て世帯2戸、社宅・まちづくり事業者の活動拠点等5戸に入居いただいている。

「京都安心すまい応援金」は、特に若年・子育て世帯の方々に比較的手が届きやすい既存住宅の購入を後押しする応援金制度となっており、8月22日からスタートする。

未就学の子どもがいる世帯という条件のほか、一定の条件はあるものの、最大で200万円の交付が可能となっており、これは、全国トップ水準である。さらに、ほかの補助金とも併用が可能となっており、より大きな経済支援となる。

《交通のバージョンアップ》

（都市計画局 篠局長）

■バス路線再編の先行実施

今年6月に、ダイヤ改正に合わせて利便性向上が図られた。市バスでは洛西バスターミナルから、阪急洛西口駅・JR桂川駅を約10分で結ぶ路線を新設。

ヤサカバスでは、買い物等の利便性向上を図るために、桂坂エリア～阪急洛西口駅～JR桂川駅を運行している系統で昼間時間帯（10時～16時）に新たに洛西バスターミナルに立ち寄る運行に変更。

また、市バス西3号、特西4号を連続運行とすることで、従来洛西バスターミナルで終点になっていたバスが他の系統へと続けて運行し、乗り換えなしでそのまま乗車が可能に。ニュータウン内の移動がより便利になる取組を実施。

■利便性向上に向けた事業者間のダイヤ調整

京阪京都交通と市バス33号系統との運行ダイヤを調整し、桂駅東口から洛西方面へ、平日昼間時間帯は10分間隔で運行。また、阪急バス63系統と市バス西9号系統の運行ダイヤを調整し、洛西バスターミナルから南春日町方面へ、午前中～日中 にかけておおむね30分間隔で運行。利用者にとって使い勝手が高まるダイヤ調整を行っている。

■洛西地域の路線バスに関する情報をまとめた「公共交通マップ」の各戸配布

6月に実施されたバス路線・ダイヤの変更を踏まえ、地域にお住まいの方に、より公共交

通を御利用いただくため、路線図や時刻表などの情報をまとめたリーフレットを作成（22,000部）し、洛西地域の全世帯に各戸配布した。「洛西地域にこんなにたくさんのバスが走っていることが改めて分かった。」などの嬉しいお声もいただいている。

■洛西地域におけるバス利用の詳細（乗車・降車停留所、利用券種、乗車目的等）の把握に向けた旅客流動調査の実施

今年度、洛西エリアで旅客流動調査を実施する予定。利用状況を踏まえ、洛西地域のバスネットワークの在り方について検討を進めていく。

■洛西地域の全ての路線バスでＩＣカードが利用可能に

ヤサカバスでＩＣカードが利用できるよう調整が進められている。順調に進捗しており、今年度中に機器の導入が完了する見込み。これにより、洛西エリアを運行している４つのバス事業者すべてでＩＣカードの利用が可能になる。また、市バスのＩＣ定期券をお持ちの方が、民間バスでも利用できるよう（運賃制度のシームレス化）、協議・調整を進めているところ。

《公園・公有地の魅力アップ》

（建設局 朝山事業促進担当部長）

令和５年１１月補正予算により、境谷公園と大蛇ヶ池公園でザイルクライミングというロープでできた大きなジャングルジムの新設工事を進めている。ザイルクライミングは子どもに大変人気のある遊具であり、境谷公園や大蛇ヶ池公園のみならず、洛西地域の新たな魅力になると考えている。

現状、遊具を据え付けた状態だが、今後、安全対策等の工事を進め、検査を経た上で令和６年１２月末までに完成させていきたいと考えている。

また、境谷公園ではトイレのリニューアルに向けて設計を進めており、令和７年３月末の設計完了を予定している。

《学びとしごとが広がるまち》

（教育委員会 春田次長）

国際日本文化研究センター（以下「日文研」という。）へのフィールドワークでは、大枝中学校の生徒が令和６年６月に日文研を訪問し、「桂坂には歴史があり、また豊かな生物がいる」という仮説を立て、なぜ日文研が桂坂に作られたのかというテーマをもとに所員の皆様にも様々なご説明をいただいた。

ハイレベルな学術研究の施設ということもあり、生徒たちにとって日文研は敷居が高い存在であったが、連携協定を結ぶことで非常に交流が進んでいる。

今後の大枝中学校と日文研の取組として、１０月４日にこれまで学校でやってきた合唱コンクールと吹奏楽部の発表を日文研の講堂で開催する。また、１２月末には２年生の総合的な学習として日文研へ出向き、所員の方の講義を受ける取組を予定している。

加えて、教員との交流も並行して進めており、8月5日に、日文研で教員向けのワークショップを開催する。ワークショップでは、日本の伝統文化を入口に、子どもたちの問いを育て自ら探求する総合学習をどのように進めるべきか、日文研の蔵書や施設設備、ハイレベルな研究に触れながら、実践を深めていく。

来年4月には洛西陵明小中学校も開校するため、連携協定の枠組みを超えてでも、さらに様々な取組を進めていきたい。

《協働と魅力発信 洛西“SAIKO”サポーターによる主な取組》

(洛西支所 山中区長)

洛西 SAIKO プロジェクトは、地域の皆様や事業者と一緒に進めていくことが重要と考えており、このプロジェクトに賛同し、応援していただける方を「洛西 SAIKO サポーター」として募集し、現時点で800名を超える方に登録いただいている。

この間、プロジェクトの取組と並行して、サポーターが主体となった取組が複数生まれしており、その中から本日は4つの取組を紹介する。

- ① 昨年10月に実施された、「洛西 SAIKO サポーターMEET UP」。洛西大枝の筍と柿生産農家であり、放置竹林解決にも取り組んでおられる(株)DELICE キョウトの西田氏が中心となり、洛西地域の活性化について、自分たちができることを通じて貢献したいという思いを持ったサポーターによる交流会を洛西の竹林で開催された。洛西地域の活性化について、自分たちが貢献できること、したいと思うことを熱く語り合い、サポーター同士の新たなつながりも生まれた。
- ② 1月から現在も継続的に実施されている「ACWA BACE（あくわべ〜す）」。クリーニング等を行う事業者(株)アグティが、市営住宅の集会所で洗濯物をたたむという仕事を通じた地域コミュニティ活性化に取り組まれている。
- ③ 「らくさいっこ」という大学生3人の団体が、市営住宅の空き住戸を活用したコミュニティスペースづくりに挑戦されている。らくさいっこの皆さんはクラウドファンディングにより自分たちで資金を調達し、みんなが関われるまちづくりに積極的に取り組まれている。
- ④ 現在実施中だが、子供にやさしいまちを実感していただくため、(株)ハックの提案により、洛西支所にアウトドア体験スペースを創出した。夏休み期間中には子どもたちが参加して楽しめる企画等を行っていく予定。

洛西支所においては、引き続き、サポーターとの連携により、このようなサポーター発の取組について、周知・広報やノウハウの共有などの支援を行うことにより、地域との協働、さらには住民主体のまちづくりに繋げていきたい。

《協働と魅力発信「みんなで進めるまちづくりプロジェクト（仮称）」開始について》

(都市計画局 伊藤担当局長)

本プロジェクトでは、地元の市民の方や学生、事業者の方などに集まっていただき、他

都市の先行事例の紹介や参加者同士のワークショップなどを行いながら、「公園や広場でこんなことをやってみたい！」「こんな場ができたらいいな！」という想いの実現を目指していく。

本プロジェクトのキックオフとして、7月6日にタウンミーティングを開催し、59名の方にご参加いただいた。タウンミーティングでは、グランドデザイン vol.1 をお披露目するとともに、竹林でのにぎわいづくりなど、洛西地域で行われている面白い取組を学び、「洛西の未来って〇〇（まるまる）かもしれない」というテーマで、ひとりひとりがまちの姿「ビジョン」を思い描き、参加者同士が和気あいあいと意見交換等を行った。

タウンミーティングの参加者に、次回以降の本プロジェクトのメンバーにとお声掛けしたところ、25名の方が応じてくださり、「公共空間のシェアや利用、パークミーティングをやりたい。」といった声があがった。

現在メンバーは、これ以外にも市民の皆様方などに向けて広く募集しているところ。

《協働と魅力発信 これまでに行った取組》

（まち再生創造推進室 高木室長）

昨年11月の実行策のとりまとめの発表以降に実施された取組として、南福西公園の魅力向上プロジェクトや西京ひろば in 洛西をはじめとする様々なイベントが行われた。春マルシェ防災デイキャンプでは、洛西高校の皆さんと地元の事業者がコラボしドローンショーを披露した。

また、先日7月23日に開催された「あそびの時間 in 洛西タウンセンターでは、阪急洛西口にあるまちづくりプラザを運営している株式会社ボーネルンドが出張で普段の取組を展開され約700名の参加があり、非常に盛況となった。

最後に、資料13ページに記載の今年3月に、洛西地域の魅力・公共交通の利便性をPRするために、鉄道の吊り広告やバス車内でのポスター掲示などを実施しました。

■関係部局からの進行中の取組について説明

《RAKUSAI PUB. LAB. の開始について》

（都市計画局 伊藤担当局長）

先ほど、「みんなで進めるまちづくりプロジェクト」のキックオフをご紹介したが、今後は、名称を「RAKUSAI Pub. Lab.（洛西パブラボ）」と改め、9月7日から本格的に始動する。

「パブ・ラボ」とは、英語のPublic（パブリック）、Laboratory（ラボラトリー）を略した名称で、「Pub」は「社交場」としての意味も持っている。参加者全員で、公共空間をもっと楽しく、新しいコミュニティが生まれる空間に変えていくための社会実験を行うプロジェクト、という意味を込めて名付けている。

今年度は、全5回のワークショップを行いながら、11月上旬にはメンバーの企画・運営によるお試し実施（社会実験）を実施する。

この取組は、「洛西グランドデザイン 2033 Vol. 1」のバージョンアップにも反映させ、次年度以降も継続して取り組む予定としている。

なお、昨年度に引き続き、庁内の若手職員を対象に、この「洛西パブラボ」に意欲的に取り組んでもらえるメンバーを7月中旬から募集している。各職員が積極的に応募いただけるよう、ご配慮と改めてのご周知をよろしくお願いする。

■副本部長からの総括

（洛西支所 山中区長）

昨年4月28日に第1回推進本部会議を開催し、各局の皆様には交通のバージョンアップや情報発信などご尽力をいただき感謝申し上げます。

洛西支所においても、先ほど報告したサポーターによる取組以外にも、これまで様々な取組を実施してきた。

支所は、住民の方に一番近い役所であり、ある程度地域で活動されている方を知っていたつもりではあったが、SAIKOプロジェクトが始まり、それ以外の方たちにも、取組を認識いただけた点が非常にありがたい。

また、全庁的なプロジェクトのため、洛西以外でも情報発信ができたことにより、これまで洛西に関わっていなかった方たちに新たに洛西に関わっていただき、人と人との繋がりが無限に広がっているように感じている。こうした繋がりの結晶として、令和5年11月補正による春マルシェ・防災キャンプを開催でき、それを通して、新たなサポーター間の繋がりも生まれた。今後もプロジェクト推進の機運醸成に努めて参りたい。

6分野55アクションの多岐にわたるアクションを前に進めていくにあたり、様々な方から、重い言葉や苦言をいただくこともある。地域の理解をしっかりと得ながら、プロジェクトの機運をさらに高めていくためには、各部署の進捗を地域の皆さまにこまめにお知らせしていくことも重要と考えている。市民しんぶんやサポーターメールマガジン、その他のツールをできる限り使いながら発信して参りたいので、各局の取組についても情報共有をいただきたい。

プロジェクト立ち上げ当初から目指している「洛西のまちに若者が来て、住み続けてもらう」まちにしていくために、洛西支所としても各局と密接な連携を図り、地域の橋渡しをしっかりと担って参る。

（都市計画局 旗局長）

山科・醍醐地域でもmeet us（ミータス）が始まり、洛西“SAIKO”プロジェクトは去年で終わったのかと心配する声をいただくことがある。洛西“SAIKO”プロジェクトは、一気呵成に洛西でまちづくりを進めていくために、局間横断的な体制のもと、昨年度はどちらかというと、行政中心に短期集中型で当面の将来の目標を立て、今行政がすべきことを改めて明らかにした取組であった。それを受けて、今年度、引き続き取組を進めて行くという位置付けである。

山科・醍醐地域の取組は、SAIKOプロジェクトの成功した事例を踏まえて、洛西を進めながら、両地域でより良いまちづくりを進めていくもの。順番にやっているのではなく、洛西も引き続きやっていく。

昨年度は行政中心に進めてきたが、タウンミーティングを3回実施した。そうした中で、着実に、関わっていただいている住民の方の意識も期待も高まっていくのをヒシヒシと感じている。特に、今年7月6日に開催したタウンミーティングでは、明らかに参加者の意識が高まり、より広い視点での様々な意見をいただけた。

また、直近の「遊びの時間 in 洛西サブセンター」では、約700名の方が集まったとのこと。こうした機運をさらに高めていくためにも、住宅室中心に進める「RAKUSAI PUB. LAB.」では、これまでの参加者に加え、様々な活動をしている新たな方も巻き込み、まちづくりをさらに加速させていきたい。

行政でやるべきハード的な取組については、引き続き皆様の協力をいただきながら進めると同時に、区役所を中心に、市民・区民とともに進めるまちづくりを一気に進めていきたい。

■本部長からの総括

(竹内副市長)

ここまで市役所・支所が部局を越えて、また、地域住民の方、企業の方が一応一緒になって洛西地域を良くしていこうというこの取組は、洛西が先頭を走っている。

洛西の取組が山科・醍醐プロジェクトに繋がり、そしてそれ以外の地域の今後の新しい地域づくりのあり方に繋がっていくと考える。引き続き各局・支所に取組の継続をお願いしたい。

昨年度は本市でビジョンをまとめ、それを実行していく進め方であったが、今年度は地域の方々にご参画いただきながら、昨年度決めたものをさらにバージョンアップさせながら進めていく局面を迎えた。このプロジェクトは昨年度で終わりではなく、昨年度が始まりである。今後の取組に向けて3点お願いしたい。

- ① 地域の皆さんの声や参画を大事にすること。役所が上からではなく、地域の方々の様々な思いを形にする、そして地域の方が参画していただく、関わっていただくことを、大切にして欲しい。RAKUSAI PUB. LAB. の取組をはじめ、更に取組を加速していただきたい。
- ② 現在進行中の取組も含め、着実に取組を進めていくこと。また、将来的な取組も出てくるかもしれないが、各局、支所、そして地域住民の皆様とともに進めていただきたい。
- ③ 本プロジェクトは、昨年度のビジョンだけで終わるものではない。地域住民の声を聞きながら、新しい取組があれば積極的に取り入れて、進化する取組にしていきたい。

■次回予定について（都市計画局まち再生・創造推進室 高木室長）

(事務局)

引き続き、関係部署や地域の皆様と連携して、しっかりとプロジェクトを進めて参る。

今年度、次回第2回目を開催する予定をしているが、日程については別途調整し、お知らせする。